

曹洞俳壇

選・村松五灰子

過疎の村拳げて一夜の盆踊

福島県 佐藤 宣夫

評 お盆ともなれば、村を出た人たちも故郷に戻って踊り、少し村も賑やかさが戻る。嬉しく、寂しく、もの悲しい一句。「村拳げて」に余情。

はからずも病衣となりし更衣ころもがえ

神奈川県 小野沢邦彦

評 本意ながらの病。しかし表現に明るさがあり、飄々としていて、救いがある。句のリズムも良く安定感のある句となっている。

◆気ままとは時にさびしき今日の秋 青森県 中田 瑞穂

◆白日傘遠くの海を見てゐたり 東京都 長谷川 瞳

◆糸切り歯使ふ初秋の針仕事 東京都 矢野 祥子

◆まだそこに除染の袋濃あぢさる 福島県 渡辺 正一

◆水平線丸く晴れゆくラムネかな 大阪府 柏原 才子

◆夏の空行雲流水あるがまま 愛媛県 能仁めぐみ

◆天蓋を頂くごとく揚花火 神奈川県 小田喜信博

◆売れ残る団地の闇に虫時雨 新潟県 星野 三興

◆まだ瀬音聞こえさうなる鮎もらふ 福島県 大槻 弘

◆ハンカチの真白き鶴を折りにけり 愛媛県 井上 征郎

*選者吟

短檠のほのと床には石路の花たんけい

五灰子

*作句小見

漂泊の詩人、俳諧の祖芭蕉は旅の途中、十一月大阪で亡くなりました。

五十一歳。時雨忌、翁忌、桃青忌ともいいます。

時雨忌やわが志高く置く 稲畑汀子

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

紅きそう白粉花おしろいばなにふれ曲る自転車おんせんの風香りを散らす
愛知県 田中 澤子

評 この一首の主役は何だろう。自転車の通り過ぎた後の風のようにもあるし、白粉花のようにもある。その二つを統合するのが「香り」という構図が面白い。勿論、作者は素直に爽やかな風を詠まれたのだが。紅と白の対比も鮮やか。

長ねぎをフランスパンのごと抱えゆけば大地の温もり伝う
青森県 中田 瑞穂

評 長ねぎとフランスパンの取り合わせに意外性がある。焼きたてのフランスパンの温かさと対比して、葱には大地の温もりがあると讃える。農業をする人の誇らしさが伝わってくる。

◆留守番を開放されし朝の試歩のうぜんかづらの濃き影ながし
山形県 多田 さよ
◆体内の染まる思いに紫蘇をもむ小声でお経を唱えながら
山梨県 北村 富子

◆田の畦に子が刈り残しし撫子の咲く数増せり真夏日つづく
長野県 両角 徳子

◆子守唄うたう暇なく育てし娘を今は施設に指おいて待つ
秋田県 石川 京

◆流されし故郷の嬸ら相寄りて閑上会とうお茶っこ飲みます
宮城県 須藤智恵子

◆山ざくら吹き散る峽の苗代田に支持候補者なれば泥の手を振る
長野県 毛涯 潤

◆どの松も海に傾ぎて磨崖仏ひねもす島の秋蟬に倦む
宮城県 鎌田登喜子

◆段梯子よりすべりたる夢百物語に重ねて冷たき汗を拭いぬ
兵庫県 前田あつ子

◆ハングライダーゆだる町空めぐり去る皆憧れて仰ぎ見て
岩手県 関合 新一

◆風わたり稲がさらさらそよぐとき畦のスギナもなべておじぎす
秋田県 小松 紀子

*選者詠

いつだって経験のないあしたなり誕生日と言う踊り場に立つ
ちづ

*作歌小見

須藤さんの歌の閑上おんせんは五年前の震災で甚大な被害を被った地。土地の言葉が温かく会の雰囲気伝えます。子育ての時期は忙しく充分構ってやれなかった娘さんの来るのを指折り待つ石川さん、世の母親の思いを代弁してくださいました。



大本山永平寺



冬支度

十一月の初旬、永平寺は紅葉真っ盛りです。赤や黄色と鮮やかに彩る楓は境内を飾り、訪れた人の心を楽しませてくれます。参拝者数も年間で最も多く、山内は、訪れた方の会話や笑い声に包まれ賑やかにになります。

中旬からは、禁足期間である冬安居制中が始まり、同時に冬支度も始めます。冬に向けての支度にインフルエンザ予防接種があります。永平寺の修行生活は「大衆一如」と言い、みんなで同じことを行い一緒に過ごす時間がたくさんあります。これからの季節、ひとりが風邪やインフルエンザにかかること、あつという間に広まってしまいます。ですから修行僧は、病院から医師に来ていただき、予防接種を受けます。その他に、竹箆を運び堂内を護る雪囲いや、十二月に行う「歳末助け合い托鉢」で使う草鞋を自分たちで編みます。冬支度の済む下旬には、紅葉はすっかり終わり、参拝者の訪れも疎らになり、永平寺は静けさに包まれてゆきます。修行僧たちも厳しい寒さの冬に向かい、心の準備をし静かに冬の訪れを待ちます。



大本山總持寺



「御移転記念式典」と「制中五則」

十一月の總持寺は記念すべき行事が盛り沢山です。

まず、五日は今から一〇五年前の明治四十四（一九一一）年に總持寺が能登から横浜鶴見に移転してきて遷祖式が盛大に行われた日です。これに因んで、毎年十一月一日から五日まで様々な記念式典を行っております。その内容は、記念法要の他に「檀信徒の集い」、「大茶会」、「華道展」、「万灯供養」、「稚児行列」、「つるみ夢ひろば」など多岐にわたります。特に、横浜・鶴見の文化に親しみ、東日本大震災被災地との絆を深める「つるみ夢ひろば」は今年で第五回目を迎え、すっかり地元に着してきました。

十三日（日）から十七日（木）にかけては、冬安居「制中五則」となり、心新たに弁道に励みます。そのクライマックスが「首座法戦式」で、首座が大勢の修行僧と禅問答を交わし真剣勝負が繰り広げられます。

この他、二十一日（月）は、總持寺を開かれた瑩山禪師さまの降誕会（誕生日）であります。この日は大祖堂で、降誕をお祝いする法要が厳粛に営まれます。

降誕会が終わりますと、いよいよ臘八接心を迎える時節となり、修行僧の顔つきも一段と引き締まってまいります。